

日本労働年鑑 第54集 1984年版  
The Labour Year Book of Japan 1984

第二部 労働運動

XII 政治的大衆行動と平和運動

4 反戦闘争

戦争犠牲者追悼式典

三六回目の終戦記念日である八二年八月一五日、前年にひきつづいて、総評・中立労連・新産別・護憲連合・社会党の五団体は、共催で「戦争犠牲者追悼、反戦・平和への誓いを固める式典」を開催した。千鳥ヶ淵戦没者墓苑でひらかれたこの式典には約五〇〇人が参加し、飛鳥田社会党委員長、富塚総評事務局長などがあいさつをおこなった。

侵略を反省し、不戦を誓う集い

柳条湖事件を口実に五一年前に関東軍が中国東北部への侵略を開始した九月一八日、総評主催の「侵略を反省し、不戦を誓う集い」が日本教育会館でひらかれ、約三〇〇人が参加した。集会では、榎枝総評議長のあいさつののち、岡田衆院副議長、宇都宮徳馬参院議員、作家の五味川純平氏、俳優の三国連太郎氏ら各界の代表が不戦の決意を表明した。

分裂した国際反戦デー

一七回目を迎えた一〇・一二国際反戦デーは、連合政権構想などをめぐる社・共間の対立を反映して、東京での中央集会が両党系に分裂した前年につづき、八二年の一〇・一二中央集会も社会党系が代々木公園で、共産党系が明治公園でそれぞれ別個にひらかれた。しかも、社会党系の集会は、八一年は総評・中立労連・新産別の労働三団体主催だったが、八二年は中立労連・新産別が「反米的な要素が強すぎる」などを理由に参加を拒否。総評の単独主催となった。

代々木公園B地区でひらかれた総評主催、社会党・護憲連合・原水禁協賛の中央集会には約二万八〇〇〇人が参加。榎枝議長が「反核・軍縮運動をもりあげ、軍事大国化を阻止しよう」とあいさつしたのち、「反核運動のエネルギーをさらに持続的に幅広く発展させ、〃死への大行進〃を断固たる決意で阻止しなければならない」との「集会宣言」を採択。そのあと、デモ行進がおこなわれた。

他方、明治公園でひらかれた安保破棄・諸要求貫徹中央実行委員会主催の中央集会には、約三万人が参加。不破共産党委員長の決意表明、松浦総三全国革新懇代表世話人、引間博愛統一労組懇代表委員らのあいさつののち、「自民党政治の根本的転換をめざし、革新統一戦線結集のために、全力をあげて奮闘する決意を新たにするものである」との「宣言」を採択。都内をデモ行進した。

なお、八二年の一〇・二一全国統一行動としては、前年より二県多い、北海道、青森、秋田、岩手、宮城、新潟、長野、山梨、埼玉、静岡、岐阜、富山、福井、石川、滋賀、和歌山、島根、香川、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎の二五道県で、社・共両党系の統一集会が開催された。

三月六日、前年の「下町反戦集会」をひきついで、二回目の「再び許すな東京大空襲！三・六下町反戦平和の集い」が蔵前国技館でひらかれ、前年の約二倍、一万人が参加した。前年の約三倍である五〇〇人のよびかけ人、賛同人によってよびかけられ、準備されたこの集会では、総評の平副事務局長をはじめ、森滝市郎、桃原用行、坂野宏、早乙女勝元ら各氏があいさつ。日フィルの演奏もおこなわれた。集会は、東京平和祈念館の建設、戦争犠牲者にたいする援護法の制定などの要求を決議して閉会した。

日本労働年鑑 第54集 1984年版

発行 1983年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 ●

2001年8月28日公開開始

---

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1984年版(第54集)【目次】 次のページ → ■  
日本労働年鑑【総合案内】

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---